

2019年10月22日

文部科学大臣 萩生田光一様
文化庁長官 宮田亮平様

あいちトリエンナーレの補助金不交付への抗議

Back and Forth Collective
小口なおみ、坂本夏海、滝朝子、本間メイ

私達は未だ残る女性の役割差別を実際に感じ、女性に関する歴史を調べて作品や展示などを行っているコレクティブです。今回のあいちトリエンナーレは男女作家を半々にするなど画期的な試みをしたことで公的な支援に適していると思います。

Back and Forth Collective

私はアーティストや事務局員としていくつかの文化庁に補助された事業に関わってきました。どの事業も文化庁へは社会にどのように位置づく事業であるか、文化事業として社会に関わるビジョンを示し、責任を持って実施できるかどうか審査を経て決定されます。

運営に際しては事業者と文化庁担当者は不明点があれば、どちらからでも連絡を取り合っていると思います。

そのため、今回の決定後の全額不交付は運営として不適当だと思います。

芸術祭として、様々なアプローチで鑑賞者と社会のつながる機会をつくる公的な価値がある内容でした。

大衆向けのミュージシャンから、ローカルな商店街で楽しめる場所、他国でより大きな難民の問題を親しみを持って考えられるもの、日本の伝統や自然環境を取り扱ったもの、性別役割や人種などの差別、戦争被害や加害を考えさせるもの。技法としてもテクノロジーを駆使したもの、コミュニケーションの中で作られるもの、伝統工芸や近現代の造形的な技術を使ったものなど多様性がありました。

戦争加害を扱ったものはセンシティブですが、公的に考えていかなければいけないことだと思います。

採択後のトップの強引な不交付決定で文化庁補助金について不明な点を増やし、公的透明性が損なわれたと感じます。不交付の撤回を要請します。

滝朝子

あいちトリエンナーレに対する文化庁からの補助金全額不交付の決定は異例であると感じることから、私はその方針撤回を文化庁に要求します。

文化庁がなぜ文化を踏みにじるような行為をするのか納得できません。本来、文化は芸術だけでなく、私たちの日常生活に存在する様々なものです。妊娠・出産に関わる文化を一つとっても、日本でお宮参りなどがあるように海外でも出産前のお清めの儀式など、ありとあらゆる習慣があります。それらを文化として守り、今後の糧とすることが結果的に豊かな国を形成することができるのではないのでしょうか。

私は東南アジアでも生活していますが、アーティストたちは時折、自主規制を余儀なくされます。そうしないと自分の身が危ないことがあるからです。普段は平穩に暮らしていても、やはりそういったことを頭の片隅に入れているのです。そうした国では、文化を育て、先進国と肩を並べることはとても難しいです。日本もそうなっているのでしょう。一刻も早く、文化庁があいちトリエンナーレへの補助金全額不交付を撤回することを望みます。

本間メイ